

名古屋
能楽堂

九月

Nagoya Noh Theater

定例公演

能楽普及公演



能「舍利」
提供:久田家



能「葛城」
撮影:宮本成美

能

狂言

能

「舍利」(観世流)
シテ 吉沢 旭

「蟹山伏」(和泉流)
シテ 松田 高義

「葛城」(金剛流)
シテ 羽多野良子

鉄道で訪ねる
能・狂言
ゆかりの地
—— 鉄道開業一五〇年によせて ——
〈葛城山ロープウェイ・京阪電鉄〉
能「舍利」の鬼は神に責められ、能「葛城」の神は
山伏の祖・役行者に責められる。狂言「蟹山伏」の山伏は…?
現代人には難解な、人間と「それ以外」との関係性。
実際に霊地を訪ねてみたら、能や狂言が生まれた時代の世界観に
近づけるかもしれません。

令和4年

9月4日(日)

12:30開場
13:30開演

指定席 4,200円
自由席(一般) 3,200円
自由席(学生) 2,000円



『公文協アートキャラバン事業 劇場へ行こう2』参加
文化庁 統括団体によるアートキャラバン事業(コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業)
Supported by the Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

7月1日(金)より
前売券発売

名古屋能楽堂 九月定例公演
《能楽普及公演》

番組
能 葛城(金剛流)

前シテ 里女
後シテ 葛城明神
ワキ 羽黒山の山伏
ワキツレ 山伏
フキツレ 山伏
アイ 里人

笛 竹市 学
小鼓 船戸 昭弘
大鼓 河村 眞之介
太鼓 鬼頭 義命

後見 宇高 竜成
宇高 徳成

地謡 平澤由美子
熊谷真知子
伊藤 雅子
加藤かおる
田中 春奈

仕舞 嵐山(宝生流)

衣斐 愛

地謡 内藤 飛能
衣斐 正宜
平田 正文

仕舞 六浦(金春流)

廣瀬 雅弘

地謡

前田 登
本田 由樹
鬼頭 尚久
矢代 隆夫

仕舞 玉葛(喜多流)

地謡 長田 驍
伊藤 英毅
長田 郷
松井 俊介

狂言 蟹山伏(和泉流)

シテ 山伏
アド 強力
アド 蟹精

後見 藤波 徹

休憩十五分

能 舍利(観世流)

前シテ 里人
後シテ 足疾鬼
ツレ 草駄天
ワキ 旅僧
アイ 能力

笛 山村 友子
小鼓 後藤嘉津幸
大鼓 河村裕一郎
太鼓 加藤 洋輝

後見 笠田 裕樹
久田 勘鷗

地謡 本田 勲
祖父江修一
下川 宜長
山中 雅志
松山 幸親

◆能解説「葛城」(かつらぎ)

大和国(奈良県)葛城明神に参詣を志して、出羽国(山形県)羽黒山の山伏が葛城山にやって来ます。

突然の吹雪に悩む山伏(二行の前)に、女が現れ、自らの庵に案内します。夜寒を凌ぐために、標しもを炊き、女に標とは珍しい木だと尋ねると、「しもと結う葛城山に降る雪は聞かぬ時なく思はゆるか」と大和舞(やまとまい)の古歌を教えます。やがて、後夜の動行を始める山伏に、折檻につけて私を二熟の吉しみをかき、救つてほしいと頼みます。女は葛城の神で、吉野へ岩標を掛けようとして役行者に命じられましたが、自らの離れを助けて暗い夜に働かなくなったため、標は完成せず、怒りかかって呪縛された苦しみを語り、姿を消します。夜もすくから葛城の神のために祈禱する山伏の前に、女神が現れ、報謝の舞を舞います。その後、女神は、容姿を助けて夜が明ける前にと姿を隠すのでした。山伏修行の道場として昔から修験者の受け入れられてきた葛城山(金剛山地の総称)は今、葛城山ロープウェイで、葛城山(上町)へ、春は「二百萬本」と言われる真紅のツツジの群生、秋は、ススキの黄金パノラマ等、古への神話の舞台は、今もなお、多くの人々を魅了しています。(羽多野良子)

◆狂言解説「蟹山伏」(かにやまふし)

修験道の聖地、大宰・葛城山、奈良県葛城郡の修行を終えた山伏が従者の強力(ごうりき)を伴って、故郷出羽(羽黒山)山形県への帰路に着きます。道中、山道を進むと俄かに空模様怪しく地鳴り轟き響く中、突然眼前に得体の知れぬ化物(蟹ノ精)が姿を現して進路を塞ぎ阻みます。

私ども和泉流山脇派の詞章では、「山深い所」として、蟹ノ精と遭遇した場所を具体的に特定していませんが、流儀によつては「江州蟹ヶ沢」(鈴鹿峠土山宿辺り)などの地名が示されます。滋賀県をばじめ福島県や山形県などの各地に今もこの「蟹ヶ沢」の名が残る、かつては険しい山地の時や谷あいでも人淋しげな恐怖心を煽る地帯であった事が伺える代名詞と見受けられます。

蟹ノ精には「蟹徳(げんとく)」という面を起用し、馬や牛といった動物や動植物の精霊など人間以外の役柄に幅広く用いられます。上目づかいの滑稽かつ異形にも見える面を使用し、山伏たちを待ち受け威嚇します。山伏が登場する演目では、その多くが大宰・葛城山から羽黒山へと向かう帰路道中に、何事か騒動に発展するという展開で、ほかに「柿山伏」「福宜山伏」などがあります。(井上松次郎)

◆能解説「舍利」(しり)

出雲の僧が都に上り、東山泉涌寺に大唐渡来の十六羅漢や仏舍利を拝もうと訪れます。寺の案内で舍利を拝みますと、どこからともなく里人がやって来て、「一緒に舍利を拝みますか」と、仏舎利のありがたみを説くので、俄かに空気が曇り、稲光を放ちます。里人が、自分は足疾鬼の執心だと明かすと、顔が変わり鬼の様相となります。そして、仏舎利を奪い、天井を蹴破り虚空に飛び去ってしまいます。僧は、物音に駆けつけた寺男から、釈迦入滅に際して、足疾鬼が歯を盗んだことや、舍利が、その歯を取り返した由来を聞き、二人して舍利天に祈ります。

舍利天が現れ、足疾鬼が天上に逃げるのを追いかけて、下界に逃げるを追いつめ、前後左右塞がった足疾鬼がくるくる渦巻くところを、宝棒で打ち伏せ仏舎利を取り返します。足疾鬼は力尽きて果てて消え失せます。

東山の泉涌寺は御寺(みでら)とも云い、皇室の菩提寺として知られています。舍利殿には牙舍利が容器に納められ、左右に月蓋長者(がつがいちやうじや)と舍利天を従えているそうです。

◆「イヤホンガイド」

日本語／大山 範子(神戸女子大学古典芸能研究センター非常勤研究員)

英語／藤江さおり(通訳ガイド)

◆「能(舍利)」

日本語／田崎 未知(能楽研究家・名古屋能楽堂「イヤホンガイド」)

英語／藤江さおり(通訳ガイド)

九月定例公演事前学習講座

8月13日(土) 14:00~16:00

受講チケット500円

◆能「葛城」「舍利」のあらすじ、見どころを解説します。詳細は事前学習講座チラシをご覧ください。

※事前学習講座のチケットは、名古屋文化振興事業団の管理する文化施設窓口にて取り扱いをしております。

チケット料金(税込み) *前売券発売日 令和4年7月1日(金)

指定 Reserved	自由 Non reserved	
	一般 Adult	学生 Student under 25 years old
4,200円	3,200円	2,000円

*学生券は25歳以下を対象とします。*未就学児のご入場はお断りいたします。

*チケットは1回につき4枚までの販売とさせていただきます。

*事業団友の会会員・障がい者手帳等をお持ちの方(付添者1名含む)は400円引きです。(学生券の割引はありません。)

(名古屋能楽堂・事業団チケットガイド・事業団施設窓口のみ。各割引の併用はできません。)

前売券取扱所 Ticket Office

名古屋能楽堂／TEL.052-231-0088

*前売券発売日当日は、お電話がつながりにくいことがあります。

名古屋文化振興事業団チケットガイド／TEL.052-249-9387

(平日9:00~17:00/チケット郵送可)

名古屋文化振興事業団が管理する文化施設窓口<土日祝日も営業>でも

お求めいただけます。

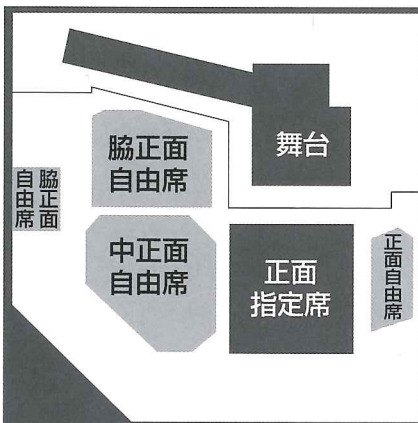
(工事休館などがありますので、ホームページでご確認ください。)

チケットぴあ／(Pコード512-225)

*外国籍が証明できるパスポート等を持参された方には前売・当日とも割引します。(名古屋能楽堂取扱いのみ)

Discount is available by showing passport or other proof of foreign nationality. (at Nagoya Noh Theater only)

お問い合わせ／名古屋能楽堂 TEL 052-231-0088 FAX 052-231-8756



【感染予防への取り組みとお願い】

- ◎感染予防のため、ご来館の際はマスクを着用ください。マスクを着用でない方の来館はお断りします。
- ◎入場時の検温にご協力をお願いします。37.5度以上の場合は入場をお断りします。
- ◎チケットの半券にお名前と連絡先電話番号をご記入ください。ご記入いただきました個人情報、新型コロナウイルス感染者が発生した場合など必要に応じて保健所等の公的機関へ提供されます。一定期間経過後に適切に破棄させていただきます。
- ◎指定席は間隔を空けた山松模様状に配置しております。自由席はお客様同士が隣り合う場合があります。
- ◎本公演は名古屋市の「文化施設における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に基づき実施いたします。ガイドラインに基づいた対策にご理解・ご協力をお願いいたします。

公演についての最新の情報は
名古屋能楽堂ホームページを
ご覧ください。



<https://www.bunka758.or.jp/facility/nougakudo/>